

大中で立志式 2年生が将来の夢や目標語る

え年で15歳を祝う元服にちなんだ立志式が、2月22日(木)に大石田中体育馆で行われ、2年生47人が参加しました。同校では、生徒の自立心を育むため毎年立志式を開催しています。立志式は2部構成で行われ、最初に、生徒による決意表明が行われました。茂庭秀明教頭が「今の志をしっかりと発表して、ご家族の方に感謝を伝えましょう」とあいさつすると、生徒はそれぞれ「甲子園野球に出場したい」や「勉強を頑張って志望校に合格したい」、「優しい人になりたい」など、今後の生き方や将来の夢を発表しました。

第2部では、株式会社最上川千本だんご代表取締役の五十嵐智志さんを招いた講話が行われました。講話は、「『ふるさと』大石田町を事業を通じて元気にしたい」というテーマで行われ、五十嵐代表が自身の経験を通して感じた「失敗を恐れずに挑戦すること」や「ふるさとを大切にすること」の大切さなどについて、優しく生徒たちに語りかけていました。

立志式実行委員長を務めた青木脩悟さんは、「1月から立志式の準備をしてきました。人前で発表をするのはすごく緊張しましたが、自身の志である『堅忍不撓』という言葉に込めた思いをしっかりと伝えることができました。この言葉を大事にしながら、これから学校生活を頑張りたいです」と話していました。

そば街道振興会が水明苑を訪問 利用者とそば打ちで交流

そば店15店舗で組織する大石田そば街道振興会（芳賀清会長）の会員が2月21日（水）に水明苑を訪れ、利用者と職員に打ちたて茹でたてのそばを振舞いました。これは、同会がおいしいそばを味わってもらおうと、コロナ禍になるまでは毎年実施していたもので、今回4年ぶりの開催となりました。

この日は、そば打ち体験も行われ、利用者は会員にアドバイスを受けながら「こね、のし、きり」の作業を行い、作業が終わると見守っていた利用者や職員から会員に感謝の拍手が送られました。

最後に、茹でたてのそばが振舞われ、利用者はおいしい大石田そばに舌鼓を打っていました。



つや姫のおいしさ競うコンクール 土屋 隆志さんが1位

つや姫のおいしさを競う「つや姫おいしさの神コンクール」が、2月7日（水）に新庄市で行われ、土屋隆志さん（川前）の生産した米が1位に選ばされました。同コンクールは、つや姫の更なる評価向上を目指して山形つや姫マイスターの会が開催しているもので、今年で3回目の開催です。

今年は県内から合計70点が出品され、香りや食感などを審査しました。土屋さんの米はうま味など、つや姫の特徴をうまく捉えていた点が評価され、見事1位を受賞しました。

土屋さんは「栽培マニュアルに従ってしっかり管理してきたことが結果につながりました」と話していました。

北村山高校そばガールズが 児童に手づくりの裁縫針刺しを寄贈

北村山高校家庭クラブ活動「そばガールズ」が、2月19日（月）に大石田小学校と役場を訪れ、4月から5年生に進級する児童41人分の手作り針刺しを寄贈しました。寄贈された針刺しは、学校で回収したペットボトルのキャップや裁縫で使用した布の端切れなどを再利用して、そばガールズのメンバー自ら、一つ一つ手作りしたものでした。

そばガールズ代表の遠藤奏穂さんは、「小学校5年生から家庭科の授業が始まります。針刺しを活用してもらって、裁縫に興味を持ってもらえると嬉しいです」と話していました。

大変ありがとうございました。



第2部では、株式会社最上川千本だんご代表取締役の五十嵐智志さんを招いた講話が行われました。講話は、「『ふるさと』大石田町を事業を通じて元気にしたい」というテーマで行われ、五十嵐代表が自身の経験を通して感じた「失敗を恐れずに挑戦すること」や「ふるさとを大切にすること」の大切さなどについて、優しく生徒たちに語りかけていました。

立志式実行委員長を務めた青木脩悟さんは、「1月から立志式の準備をしてきました。人前で発表をするのはすごく緊張しましたが、自身の志である『堅忍不撓』という言葉に込めた思いをしっかりと伝えることができました。この言葉を大事にしながら、これから学校生活を頑張りたいです」と話していました。



食生活改善推進員連絡協議会が 町に食育関連の本25冊を寄贈

食生活改善推進員連絡協議会（長沢依子会長）が、2月21日（水）に役場を訪れ、食育関連の本25冊を寄贈しました。同会では「子どもたちの食育に役立ててもらいたい」との思いから、令和元年以降、毎年町に食育関連の本を寄贈いただいており、今年で5年目（合計136冊）です。

寄贈にあたり、長沢会長は「食は本当に大切です。特に子育て中の方に読んでいただき、親子で学んでほしいです」と話していました。

寄贈いただいた本は、町立図書館で読むことができるほか貸出も行っていますので、ぜひご利用ください。

大変ありがとうございました。

インバウンド客を 阿波踊りでお出迎え！

大石田駅を訪れたインバウンド客（訪日外国人旅行客等）を日本の伝統的な踊りでお迎えようと、最上川芭蕉連が阿波踊りを披露しました。同団体では、インバウンド客などの駅での待ち時間に、何か日本らしいものでおもてなしできればと考えていました。そこで昨年度から、特に多くのインバウンド客が訪れる春節、また学生旅行客が多く訪れる3月中旬の年2回に阿波踊りによるおもてなし事業を実施しています。

春節である2月10日（土）には、同団体の阿波踊りを観ようとする多くのインバウンド客が駅舎から駅前広場に集まり、賑わいをみせっていました。

同団体の今野雅信代表は、「大変多くの方に楽しんでもらえて良かったです。旅の思い出になれば嬉しいです」と話していました。